



#### A4.

- ・胃瘻造設術、気管切開術、喉頭気管分離術など様々な手術がありますが、どの手術にも利点、欠点があるので術式や手術時期については主治医の先生と相談して決めていきましょう。胃瘻造設術は、摂食障害のため経鼻胃管やEDチューブによる経管栄養を行っている方に行われます。十分な経口摂取量を得られず、経鼻胃管栄養を併用している方に胃瘻造設を行うと、経鼻胃管が抜けることで術前より経口摂取量が増えたり、呼吸が楽になる場合（気管切開、喉頭気管分離をしていないお子さん）があります。気管切開や喉頭気管分離術は呼吸障害や繰り返す誤嚥性肺炎に対して行われます。気管切開では術後に気管内に直接吸引チューブを入れることができるので誤嚥した唾液や気管内分泌物の吸引が容易になります。喉頭気管分離術を行うと唾液の誤嚥を完全に防止することができますが、術前に誤嚥性肺炎を繰り返したり、長期間にわたって無気肺が持続している場合は、気管切開や喉頭気管分離術を行っても無気肺が改善するまでに時間がかかったり、改善しない場合があります。手術を希望されるときは主治医の先生に相談してみましょう。